

『外国人に関する間接的指導のタイプ』
上三川町立坂上小学 第1学年 国語科学習指導案

1 単元名 いろいろなじゃんけんについてはなしあおう

2 単元の目標

- (1) じゃんけんに興味をもって、調べたり話し合ったりしようとしている。
(国語への関心・意欲・態度)
- (2) いろいろなじゃんけんの仕組みについて、順序に気をつけて話したり、聞いたりすることができる。(話すこと・聞くこと)
- (3) じゃんけんの仕組みを正しく読み取ることができる。(読むこと)
- (4) 作ったり調べたりしたじゃんけんについて、勝ち負けの関係を順序に気をつけて書くことができる。(書くこと)
- (5) 仲間になる言葉とまとめて呼ぶ言葉について理解する。
(言語についての知識・理解・技能)

3 単元観

本単元は、子どもたちの身近な遊びである「じゃんけん」を題材にしている説明文である。今まで意識せずに遊んでいたじゃんけんの仕組みについて、順序に気をつけて読み進めていきたい。さらに、教材文にもあるように日本だけではなく、外国にもじゃんけんがあることを知り、興味を持って、外国のじゃんけんについて調べたり、自分なりのじゃんけんを作ったりさせていきたい。その中で、他国の文化のおもしろさに気づいたり、違いを認めたりできる心を育てていきたい。

4 指導計画(総時数 19時間)

- (1) じゃんけんの仕組みを読み取り、いろいろなじゃんけんのやり方や仕組みについて話し合う。 _____ 7
- (2) 調べたり作ったりしたじゃんけんをまとめる。 _____ 8 (本時7/8)
- (3) 仲間になる言葉を集め、それらをまとめて呼ぶ言葉について理解する。 _____ 4

5 人権教育との関連

低学年の児童は、日常生活の中で使い慣れているものが、少しでも変わると「変だ。」「おかしい。」という感情を持ちがちである。本題材の中で、普段自分たちが使っているじゃんけんが、他の国ではどう使われているのかということ学ぶことにより、他国の文化、習慣について、まず興味を持たせていきたい。さらに、他国の習慣や文化に違いがあることを知ることで、「自分と他の人が違うことが当たり前」であるという違いのおもしろさに気づかせ、様々な考えがあることのよさについて考えさせていきたい。

6 本時の指導

- (1) 題目「いろいろなくにのじゃんけんについてしろう」
- (2) ねらい
他国のじゃんけんの仕組みについて、順序よく話したり、勝ち負けの関係を聞いたりすることができる。(話すこと・聞くこと)
- (3) 人権教育上の視点
・ いろいろな国のじゃんけんについて話したり、聞いたりする活動を通して、普段使っているじゃんけんと他国のじゃんけんの違いのおもしろさに気づかせたい。(判断力)

(4) 評価

観 点	具体の評価規準	十分満足できる状況	努力を要する児童への手だて
話すこと・聞くこと	作ったり調べたりしたじゃんけんについて、勝ち負けの関係を、順序に気をつけて説明している。分からないことがあれば、質問をしている。	作ったり調べたりしたじゃんけんについて、勝ち負けの関係と理由を、動作を示すなどの工夫をしながら、順序よく説明している。分からないことがあれば、疑問点を明確にして質問している。	じゃんけんの勝ち負けの関係が分かるように話すことができるよう、文章に書くように助言する。じゃんけんの勝ち負けをきちんと聞くように助言する。

(5) 展開

◎人権教育上の留意点

具体目標	学習内容	教師の支援
<p>・本時のめあてがわかる。</p> <p>・自分の調べたじゃんけんについて、順序よく発表することができる。</p> <p>・いろいろな国のじゃんけんで楽しむことができる。</p> <p>・本時の感想を発表することができる。</p>	<p>1 本時のめあてを確認する。 いろいろなくにのじゃんけんについてしろ。</p> <p>2 調べた国のじゃんけんを発表する。 ・日本（虫けん） ・フランス ・シンガポール ・ミャンマー ・アラブ首長国連邦 ・マレーシア</p> <p>3 それぞれの国のじゃんけんを体験する。</p> <p>4 本時の感想を発表する。</p>	<p>・本時のめあてを確認し、しっかり話したり、聞いたりできるようにさせる。</p> <p>・それぞれの国のじゃんけんの仕組みが分かりやすいように、絵や図を用いて発表させるようにする。 ・それぞれのじゃんけんについてすぐ振り返ることができるように、発表後は掲示しておく。 ◎全員がきちんと発表できるように、事前の練習を確認すると共に、友だちの発表をきちんと聞くように指導する。</p> <p>◎勝ち負けではなく、他の国のじゃんけんのおもしろさに気づけるよう声かけしていく。</p> <p>・普段使っているじゃんけんが、国によって違っていることや、違いがあっても楽しめることに気づかせたい。</p>

※参考文献 今人舎「世界のじゃんけん大集合」より

7 成果と課題

成果

- ・ 子どもたちに身近なじゃんけんを取り上げることで、意欲的に学習に取り組むことができた。
- ・ 子どもたちは、今まで知らなかったいろいろな国のじゃんけんにとっても興味や関心がもち、その違いをとっても楽しみながら学習することができた。
- ・ 3人で1つのグループとしたので、一人一人が説明する部分を持たせることができた。
- ・ 発表の後、実際にじゃんけんを体験することで、子どもたちが理解を深めることができていた。

課題

- ・ 人権について考えさせる発問や教材の提示が難しかった。民族の肌の色の違いや生活習慣など子どもに考えさせるところがあるとよかった。
- ・ じゃんけんを体験するときに、どれがどれに勝つかなどがすぐに分かるような掲示の工夫が必要だった。
- ・ 発表を集中して聞けるように、発表を聞いた後、質問したり、ワークシートを用意したりする工夫をするとよかった。
- ・ 一人一人が発表できる部分が多いのはいいが、6つは多いので、3つぐらいでもよかったのではないかな。